

Cobalt Drift Neo ユーザーマニュアル

Product Version 1.1

1. はじめに

Cobalt Drift Neo は、Progressive Trance、Melodic House、Deep Progressive、Modern Trance 向けに設計された Windows 専用のソフトウェア・シンセサイザーです。

対応プラグイン形式は VST3 と CLAP です。

Cobalt Drift Neo は、1 レイヤー完結型のシンセです。1 つの音色内で、次の要素を組み合わせて音作りを行います。

- ・オシレーター OSC A / OSC B / OSC C
- ・フィルター Filter 1 / Filter 2
- ・エンベロープ Envelope A～D
- ・LFO A～D
- ・6 スロットの FX Rack
- ・Mod Matrix R1～R12
- ・プリセットブラウザー
- ・マスター出力

Cobalt Drift Neo は、派手な機能数よりも、実際の楽曲内で使いやすい Lead、Pluck、Pad、Bass、空間処理を重視しています。

内蔵 FX には、Cobalt Space Neo、Cobalt Feedback Neo、Cobalt Filter Neo、Cobalt Clipper Neo、Cobalt Limiter Neo など、Cobalt シリーズの DSP を統合しています。シンセ本体、フィルター、サチュレーション、ディレイ、リバース、レベル整理までを 1 つの音色内でまとめて扱えます。

起動時は、Factory Bank の Init Basic Saw Neo が選ばれた状態から始まります。

バージョン表示は、画面上部の Menu → About で確認できます。製品版は Version 1.1、Demo 版は Version 1.1 Demo と表示されます。

2. 製品版と Demo 版

Cobalt Drift Neo には、製品版と Demo 版があります。どちらも VST3 / CLAP で提供されます。

製品版

- ・時間制限なしで演奏できます
- ・プリセットの保存、Rename、バンクのインポート / エクスポートなど、通常のプリセット管理が使えます

Demo 版

- ・起動から約 15 分で音声出力が止まります。ポップアップは表示されません
- ・制限後は、プラグインを再読み込みすると再び試せます
- ・プリセットの保存、Rename、バンクの書き出しはできません

- バンクのインポートはできません
- About では Cobalt Drift Neo Demo / Version 1.1 Demo と表示されます

詳細は「14. Demo 版の制限」を参照してください。

利用条件の詳細は、同梱ドキュメントの利用条件（Terms of Use）を参照してください。

3. 動作環境

対応 OS

- Windows 11 64-bit 推奨

対応形式

- VST3
- CLAP

対応ホスト

- VST3 または CLAP に対応した 64-bit DAW
-

4. インストールと起動

Cobalt Drift Neo は zip パッケージで配布されます。インストーラーはありません。パッケージを展開し、使用する形式のファイルを手動で配置してください。

配布ファイル

プラグイン本体のパッケージに含まれる主なファイルは次の通りです。

- Cobalt Drift Neo.vst3
- Cobalt Drift Neo.clap

マニュアル、利用条件、第三者ライセンス表示などのドキュメント類は、別パッケージで提供されます。

VST3 の配置先

以下のいずれかに配置してください。

**C: \ Program Files \ Common Files \ VST3 ** または **%LOCALAPPDATA% \ Programs \ Common \ VST3 **

通常は、全ユーザー共通の配置先である次のフォルダを推奨します。

**C: \ Program Files \ Common Files \ VST3 **

CLAP の配置先

以下のいずれかに配置してください。

**C: \ Program Files \ Common Files \ CLAP ** または **%LOCALAPPDATA% \ Programs \ Common \ CLAP **

VST3 または CLAP を配置したあと、DAW を再起動するか、プラグインの再スキャンを実行してください。

5. 最初の音出し確認

- 1. DAW に Cobalt Drift Neo を Instrument / Synth として読み込む
- 2. Instrument トラックへ MIDI ノートを送る
- 3. トラックのモニター、ミュート、音量、マスター出力を確認する
- 4. Header の BANK / CAT / PRESET で音色を選ぶ

音が出ない場合は、DAW 側で MIDI ノートがプラグインへ届いているか確認してください。

起動直後は、BANK が Factory、PRESET が Init Basic Saw Neo になっていることを確認してください。

6. 画面の見方

画面上部のタブで、次の 4 画面を切り替えます。

タブ	内容
MAIN	OSC、Filter、Envelope、LFO、演奏まわりの基本音作り
FX	6 スロットのエフェクトラック
MOD	Mod Matrix R1〜R12
BROWSER	プリセットの選択・管理、Key Range

最初は MAIN で OSC、Filter、Envelope を調整し、必要に応じて FX と MOD を使うと分かりやすくなります。

7. Header

画面上部の Header では、プリセット選択、全体出力、CPU 負荷、メニュー操作を行います。

操作	役割
BANK	プリセットバンクの選択
CAT	カテゴリの選択
PRESET	プリセットの選択。<> で前後移動
Save	現在の音色を保存。Demo 版では無効
Delete	選択中プリセットの削除
Init	初期音色へ戻す
Undo / Redo	編集の取り消し・やり直し
Bypass	音色設定を変えずに全体出力をバイパス
Bank	バンクの Import / Export など
Menu	About
Thresh	出力保護や内部レベル制御に使うしきい値
Master	マスター音量
CPU	現在の負荷とボイス数の目安
CPU Lv	CPU 負荷の調整

Bypass と FX ALL KILL は別の機能です。

Bypass は、現在のプリセットや automation、FX スロットの設定を変えずに、シンセ全体の出力を止めます。FX ALL KILL は、FX Rack の処理だけを一時的に止めます。スロットの設定は保持されます。

8. クイックスタート

プリセットを選んで演奏する

1. Header または BROWSER で Bank を選ぶ
2. Category を選ぶ
3. Preset list から音色を選ぶ
4. MIDI キーボードまたは DAW からノートを入力する
5. 必要に応じて Master と CPU Lv を調整する

音色を作る基本手順

1. Init Basic Saw Neo を選ぶ
2. OSC A で波形を選ぶ
3. 必要なら OSC B / OSC C を有効にする
4. Semi / Cent、Unison、Spread で厚みを作る
5. Filter の Cutoff / Reso / Env で明るさと動きを作る
6. Envelope の Attack / Release で音の長さを決める
7. FX 画面で Delay や Reverbなどを追加する
8. MOD 画面で LFO や Envelope を Cutoff や FX Mix などへ割り当てる

9. MAIN 画面

MAIN 画面では、OSC、Filter、Envelope、LFO、演奏まわりの基本設定を扱います。

Oscillator: OSC A / B / C

オシレーターは、音の元になる波形を作る部分です。各 OSC には ON、波形カテゴリ、波形選択、および次のような調整があります。

操作	概要
Semi / Cent	半音・セント単位のピッチ調整
Morph	波形の変化
Phase	発音開始位相
Drift	わずかな揺れ
Unison / Detune / Spread	音を重ねて太く・広くする
Level / Pan	音量と左右バランス
Filter Destination	Filter 1、Filter 2、またはフィルターなしへ送る

波形カテゴリの例:

- Analog Core OSC
- Modern Club OSC
- Digital / Texture OSC

Filter: Filter 1 / Filter 2

フィルターは、音色の明るさ、丸さ、アタック感、動きを作る中心的なセクションです。

操作	概要
Cutoff	通す帯域。Lowpass では下げると暗く、上げると明るくなる
Reso	Cutoff 付近を強調する
Drive	入力を押し込み、倍音や密度を加える
Env	エンベロープで Cutoff を動かす量
Key	鍵盤の高さに応じて Cutoff を変える
Make	フィルター後の音量補正
Core / Character / Mode / Slope	フィルターの種類、質感、動作モード、傾き
Route	Filter 1 と Filter 2 の接続。Serial / Parallel

各 OSC の Filter Destination と組み合わせることで、音の層を分けられます。

例:

- OSC A を Filter 1 へ送る
- OSC B を Filter 2 へ送る
- OSC C をフィルターなしで薄く重ねる

Envelope A〜D

エンベロープは、音の始まり方、伸び方、消え方を決めるカーブです。

操作	概要
Attack	音の立ち上がりの速さ
Decay	最初の山から Sustain へ下がる時間
Sustain	鍵盤を押している間の高さ
Release	鍵盤を離したあとの余韻
Delay / Amount	開始前の遅れ、および効きの量

Pluck や Bass のアタック、Pad の開き方を作るときに重要です。

LFO A～D

LFO は、ピッチ、フィルター、音量、エフェクト量などを周期的に動かす低速のオシレーターです。

操作	概要
Time	動きの速さ
SYNC	DAW のテンポに同期
Amount	動きの大きさ
RETRIG	ノートごとに位相を揃える
Source / Target	LFO 内での割り当て先の選択

Voice / Performance

MAIN 画面下部では、Poly / Mono / Legato などのボイス設定と、Performance Keyboard を扱えます。

Key Range と Pitch Bend の範囲は BROWSER 画面で設定します。

10. FX 画面

FX Rack は最大 6 スロットです。各スロットでタイプを選び、ON / Mix とスロット内のパラメータを調整します。

スロットの順番によって、音の変化の仕方が変わります。たとえば、歪みのあとにリバーブを置く場合と、リバーブのあとに歪みを置く場合では、音の印象が大きく変わります。

FX ALL KILL で、FX Rack 全体の処理を一時的に止められます。スロットの設定は保持されます。

主な FX タイプ

FX	用途の目安
Dual Delay	Pluck、Lead、Arp へのリズム感や奥行き
Reverb	Pad、Lead への空間感
Equalizer	低域・中域・高域のバランス補正
Saturator	倍音と密度の追加
Distortion	より強い歪みと存在感
Neo Chorus	広がりと揺れ
Compressor	音量変化の整理
Hyper	音の広がり、厚み、ワイド感の追加
Cobalt Clipper Neo	クリップ、ドライブ、ピークの質感調整
Cobalt Feedback Neo	フィードバック、反復、揺れを使ったディレイ／空間処理
Cobalt Filter Neo	FX チェーン内の追加フィルター
Cobalt Limiter Neo	FX Rack 内でのレベル整理
Cobalt Space Neo	空間系のリバーブ

Cobalt Limiter Neo は、FX Rack 内で過大なピークを抑え、音量を扱いやすくするための実用的なリミッターです。最終マスタリング専用の高度なLOUDネス処理ではなく、音作り中のレベル整理として使うことを想定しています。

FX 使用上の注意

- Feedback、Drive、Distortion、Clipper は音量が上がりやすいため、Master や Make を確認してください
- Reverb や Delay の Mix を上げすぎると、音の輪郭がぼやけることがあります
- CPU に余裕がないときは、まず FX Mix、ポリフォニー、Unison、FX の数を減らしてください
- 重いプリセットでは CPU Lv を下げると改善する場合があります

11. MOD 画面

Mod Matrix には R1～R12 の 12 ルートがあります。各ルートで次を設定します。

操作	概要
ON	ルートの有効 / 無効
Source	動きの元。LFO、Envelope、Velocity など
Target	動かす対象。Cutoff、Pitch、FX Mix など
Amount	変化の大きさ
Curve	反応のカーブ
BIP	中心から上下に動かす

LFO や Envelope の動きを、フィルター、ピッチ、音量、エフェクトへ割り当てる画面です。

使用例

- LFO A → Filter Cutoff
- Envelope B → FX Mix

- Velocity → Filter Cutoff
- Mod Wheel → Reverb Mix
- LFO B → Pitch

Amount を大きくしすぎると変化が極端になる場合があります。最初は小さめの値から調整してください。

12. BROWSER 画面

BROWSER 画面では、プリセットの選択、並べ替え、保存、Key Range を扱います。

項目	内容
Bank	Factory、User、インポート済みバンク
Category	Lead、Pluck、Pad、Bass など
Preset list	音色一覧。Type、Character、BPM、Rating など並べ替え可能
SORT / ORDER	並べ替え項目と昇順 / 降順
Save / Delete / Rename	User プリセットの管理。Demo 版では Save / Rename 不可
Key Range	Low / High / Offset、Pitch Bend 上下

User プリセットの保存先:

```
%APPDATA% \ Synth Studio Neo \ Cobalt Series \ Cobalt Drift Neo \ Presets \ User \
```

Demo 版の保存先は、製品版とは別のフォルダになります。

Factory バンクのカテゴリ表示順の例:

- Init
- Lead
- Pluck
- Pad
- Bass
- Reese Bass
- 808 Bass
- Keys / Chords
- Arp / Sequence
- Atmos / FX
- Stab / Chord Hit

User bank のカテゴリは User として表示されます。

Bank メニューでは、次の操作ができます。

- Import Bank
- Export Bank
- Delete Bank
- Rename Bank

Demo 版では、Save / Rename、および Export / Delete / Rename Bank は使えません。Import Bank は利用できます。

13. グローバル操作

Master

Master は最終出力音量です。音が大きすぎる場合や、FX によって音量が上がりすぎる場合は、Master を下げてください。

Thresh

Thresh は、出力保護や内部レベル制御に使うしきい値です。値を下げると、過大なピークが抑えられやすくなります。

CPU Lv

CPU Lv は、PC の処理負荷を調整する設定です。選択肢は Eco / Normal / Rich です。

重いプリセットや多数のノートを鳴らすときに負荷が高いと感じたら、まず Eco または Normal を試してください。

Bypass

Header の Bypass は、現在のプリセットや automation、FX スロットの設定を変えずに、シンセ全体の出力を止めます。音作り中の比較や、一時的な無音化に使用できます。

14. Demo 版の制限

Demo 版には、次の制限があります。

- ・起動から約 15 分（900 秒）で音声出力が止まります
- ・制限に達してもポップアップは表示されません。続けて試す場合は、プラグインを再読み込みしてください
- ・プリセットの保存（Save）はできません
- ・プリセットの Rename はできません
- ・バンクの書き出し（Export Bank）はできません
- ・インポート済みバンクの Delete / Rename はできません
- ・バンクのインポート（Import Bank）はできます

製品版には、上記の時間制限と保存・Rename 制限はありません。

Demo 版かどうかは、Menu → About の表示（Cobalt Drift Neo Demo / Version 1.1 Demo）で確認できます。

15. トラブルシューティング

DAW にプラグインが表示されない

- ・VST3 または CLAP ファイルが正しいフォルダにあるか確認する
- ・DAW のプラグイン再スキャンを実行する
- ・64-bit DAW を使っているか確認する
- ・DAW が対応形式をサポートしているか確認する

音が出ない

- MIDI ノートがプラグインに届いているか確認する
- トラックのモニター、ミュート、音量、マスター出力を確認する
- プラグインやトラックが Bypass / Mute されていないか確認する
- Master が下がりすぎていないか確認する
- Demo 版の場合、約 15 分の時間制限に達していないか確認する

音が鳴り続ける

- DAW のトランスポートを停止する
- ホストの MIDI panic、All Sound Off、All Notes Off を送る
- サスティンペダルやホールドされたノートが残っていないか確認する
- 改善しない場合はプラグインインスタンスを再読み込みする

動作が重い

- CPU Lv を下げる
- 鳴らしているノート数を減らす
- Unison の Voices を減らす
- FX の数や Mix を減らす
- Reverb の Decay、Delay の Feedback など負荷の高い設定を下げる
- DAW 側のバッファサイズを上げる

音が大きすぎる、歪む

- Master を下げる
- Filter の Make を下げる
- Drive、Distortion、Clipper、Feedback の量を下げる
- FX Rack 後段に Cobalt Limiter Neo を入れる
- DAW 側のトラックメーターを確認する

バンクが表示されない

- Bank メニューからバンクをインポートしたか確認する
- Header の BANK、または BROWSER の Bank 一覧に表示されているか確認する
- Demo 版でも Import Bank は利用できます

16. 仕様・クレジット

項目	内容
製品名	Cobalt Drift Neo
バージョン	1.1
対応 OS	Windows 専用（Windows 11 64-bit 推奨）
形式	VST3、CLAP
開発	Synth Studio Neo

本製品は JUCE 8 を用いて開発されています。第三者ソフトウェアのライセンス表示は、ドキュメント一式に含まれる THIRD_PARTY_NOTICES を参照してください。利用条件は、ドキュメント一式に含まれる利用条件（Terms of Use）を参照してください。

About ダイアログ（Menu → About）にもバージョン情報が表示されます。

© 2026 Synth Studio Neo. All rights reserved.